羽地民謡「屋我地節」の調査報告

はじめに

「西武門節の起源」では、川田松夫氏が「青い海出版株式会社」に提訴した「證明願をもとに「西武門節」の出自を明らかにしました。

今回は、「青い海 No,38」のインタビュー記事「創作民謡の今と昔」（P. 103）に書かれている「羽地民謡」の側面から「西武門節」との関係性を考察するため、屋我地島・我部地区に伝わる琉歌「我部平松之址の碑」を中心に現地での調査をおこないました。

屋我地島

屋我地島は沖縄県北部名護の羽地内海に浮かぶ島で、屋我（やが）、済井出（すむいで）、饒平名（よへな）、運天原（うんてんばる）、我部（がぶ）の 5 つの集落から成り立っています。名護大百科事典によると、「近世期に羽地間切に属した屋我地島の村々は、明治 41 年に羽地村の字となり、昭和 21 年に羽地村から屋我地村として分村した。」と記されています。※引用 :「名護大百科事典」、名護市史編さん室（1988 年発刊）

我部地区

屋我地島の西部に位置する我部地区は琉球王府の山林政策によって、今帰仁村の湧川（わくがわ）の下我部（したがぶ）から移された村と、同じく今帰仁村の天底（あめそこ）から移された村が 1736 年に併合して誕生しました。

我部一帯は入り江が多いことから塩田地として開墾され、明治以降は士族が移り住んで製塩業を営んできた歴史があります。琉球王府が編纂した地誌によると、「琉球の塩作りは我部村で始まる」と記録されています。※引用 :「琉球国由来記」、琉球王府編纂（1713 年）

歌碑「我部平松之址の碑」

我部公民館から饒平名方面へ東に進み 200m ほど歩いた場所に我部運動公園があります。ここには「我部平松之址の碑」の歌碑が建てられており、現地に今もわずかに残る松の情景を詠み込んだ琉歌が刻まれています。※昭和 58 年 8 月建立

琉歌

朝凪と夕凪　やがぢ漕じ渡て（あさどぅいとぅゆうどぅい　やがぢくじわたてぃ）

我部の平松に　想い残ち（がぶぬひらまつぃに　うむいぬくち）

解説

この地域を管轄する番所（行政）の役人が詠んだ琉歌で、夜毎にかんてな港から舟を漕ぎだして、我部の平松の下で行われるモーアシビに加わり、楽しく遊んだ後、帰りの舟の上でこの歌を詠んだとされています。※引用：「名護碑文記」、名護市史編さん室（初版 1987 年）

文献資料の調査

「我部平松之址の碑」の琉歌と「西武門節」の歴史を考察する上で、根拠となる文献資料を調査するため名護市教育委員会・文化課を訪ねました。

名護市教育委員会・文化課は、旧崎山図書館に事務所を置いていた「市史編さん室」が前身で、名護博物館のオープンに伴い、2023 年 5 月に移転してきました。

訪問当日は学芸係の担当者にご対応頂き、名護市で所蔵している「我部平松之址の碑」の琉歌に関する下記二点の文献をご案内頂きました。

- 「名護碑文記」名護市教育委員会 名護市史編さん室　初版 1987 年
- 「民謡の旅」島歌民俗の会 編集：仲宗根幸市　南海時報社 初版 1991 年

「名護碑文記」については、歌碑「我部平松之址の碑」の頁で上述した内容と重複するのでここでは省略させて頂きます。

次に、「民謡の旅」では「ヨーテー節（屋我地節）」のページが掲載されており、歌詞解説の中で「我部平松之址の碑」の琉歌（朝凪と夕凪　やがぢ漕じ渡て〜）が詠まれています。また、文中には「『屋我地節』は『西武門節』の元歌である」との一文が添えられており、本書を編集した仲宗根幸一氏はその根拠に次の二点を挙げています。

「第一に、川田松夫氏が『青い海』（38 号・103 頁）ではっきりと『西武門節』の元歌は『ヨーテー節（屋我地節）』ということを証言していることである。第二に羽地内海周辺の古老によれば「昔から『屋我地節』はあったときいている」との根拠を挙げています。

調査報告まとめ

以上の現地調査をもとに羽地民謡「屋我地節」と「西武門節」の関係を考察していきます。

はじめに、仲宗根幸市氏が第一の根拠として述べている「川田松夫氏が『青い海（38 号・103 頁』ではっきりと『西武門節』の元歌は『ヨーテー節（屋我地節)』ということを証言している」という点については、「西武門節の起源」で説明した通り、「青い海出版株式会社」に提訴した「證明願」をもって明らかにしました。

続いて、第二の根拠として述べている「昔から『屋我地節』はあったときいている」という点については、自然発生的に人から人へ語り継がれる伝承の形態上、実証する資料（作成年月日が明確なもの）の追認を示さなければ根拠としては不十分であると考えます。

また、「屋我地節」に関する文献資料はどれも比較的近年に書かれたもので、1974 年 12 月に発刊された「青い海 No,38」のインタビュー記事「創作民謡の今と昔」が現存で最も古い資料であり、「西武門節」が発表された 1932 年（昭和 7 年）より以前の資料は見つかっていません。

最後に

川田松夫氏が琉球民謡協会の会長に就任する際に述べられた言葉で締めくくりたいと思います。

「古典音楽部門で活動している私が琉球民謡協会の会長に選任されたことを不思議に思われるでしょうが不思議でもなんでもありません。沖縄の現状として一般的に古典重視、民謡軽視の風潮があります。民謡はもともとその地の民族的素地から生まれ出たものであり、古典音楽にくらべて質的に落ちるということにはなりません。民謡協会は昭和三十六年に発足したものの、種々の事情で相互の連繋（係）もうまく行かず、ほとんど有名無実に終わらんとしていました。私は古典といわず民謡といわず何れも重視して何れの会にも交友がありますので、これからは両方のかけ橋となって、お互いの親睦をはかりながら生活の向上と民謡の保存育成に努力したいと思います。」※引用 :「花かんざし」第四号（1966 年発刊）

屋我地節

一、 昔ばんしんか　ハンティナにうりてぃヨー

テンマ打ち出ぢゃち　屋我地渡らヨーテー

二、うとぅに響まりる　ひらまちぬ下やヨー

毎夜若者ぬ　遊びどぅくるヨーテー

三、 我部ぬ女童ぬ　歌にうち惚りてぃヨー

羽地ばんしんか　毎夜通てぃヨー

四、 手拭やこーがき　舞やぐゎんでぃきてぃヨー

がまくぐゎぬ美らさ　チンとぅみふりヨーテー

五、 朝どりと夕どり　屋我地くじ渡てぃヨー

我部ぬひらまちに　思い残ちヨーテー

引用：「民謡の旅」島歌民俗の会 編集：仲宗根幸市　南海時報社 初版 1991 年

※歌詞は十五年前（1976 年頃）、屋我地在の小浜勇氏（本部町備瀬出身故人）から採集した「ヨーテー節」の元歌である。と記載されている。